

2022年度 市野与進こども園 事業報告

「ウィズ コロナ」の教育・保育が日常となり、コロナの流行状況に合わせて、浜松市と協議しながらクラス毎の休園措置や保護者に登園自粛の依頼をするなど、日々生じるさまざまな事態への対応に苦慮しながらの1年でした。以上児クラスの園児は検温や手指消毒、マスクの着用等、毎日の繰り返しの中で園児自身が「自分で自分の身を守ること」を身に付けることができました。これは健康安全教育の面からも幼いうちから感染症予防の知識として、今後も必要なことだと感じます。園行事に関しましては、昨年度と同様に感染状況を鑑みながら、可能な範囲で実施してまいりました。行事当日の子どもの姿だけでなく、行事を迎えるまでの保育の過程や子どもの成長を日々丁寧に保護者に伝えることを意識してきました。また、園全体で一つ一つの行事の目的やねらい、年齢ごとの園児の関わり方を再確認するよい機会にもなりました。

一方で、園児の命、安全・安心が何よりも優先されるべき保育の現場にあって、送迎バスに園児が置き去られる痛ましい事故や保育施設での保育者による虐待や不適切な保育が県内で発生しました。このことを受けて、園全体での安全管理の徹底にむけ、外部研修を受けたり、保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリストを実施し、職員間で「子どもを尊重する保育」についてグループごとに話し合い、振り返りの時を持ちました。安心・安全な保育のためには同僚間で、日常的に安全面や園児への関りの違和感や気づきを放置せずに出し合う事も全体で共有しました。安全管理の面でも日々の安全点検表を見直す等ヒューマンエラーの防止に最大限の努力を重ねてまいりました。

在園児数については、4月当初162名でスタートし、3月には定員191名に対して172名の在籍数となり、平均入所率は95%となりました。

【重点目標及び施策への取り組み】

1. 保育サービスの質の向上

- ① 聖隷福祉事業団のこども園への施設見学や外部講師(聖隷ひばり保育園 坪川氏)をお招きし、子どもの認知発達理論に基づいた「構成論」の学びを通して、子ども自らが「やってみよう」と思える環境づくりを目指し、保育室の環境の見直しを行った。
- ② 数年前から取り組んでいる保育ドキュメンテーションでは、職員間での対話(クラスごとの10分間ミーティング)を毎日欠かさず行うことで、保育教諭の子どもに対する観察力を養い、保育の幅を広げ、スキルアップに繋げることができた。
- ③ 安全係を中心に「事故報告」「ヒヤリハット」を活用して、毎月子どもの育ちや職員自身の行動分析を行い、保育中の安全管理を徹底して行った。
- ④ 降園時の保護者との「1分間コミュニケーション」や保育参加を通して家庭と子どもの姿を共有をしたり、保護者が我が子の成長が感じられるよう、クラス内で写真の貼り出し等、保育の見える化に努めた。

2. 職員が働きやすい環境作り

- ① ICTシステム「コドモン」の業者説明を聞き、ICTを活用した記録業務や保護者への連絡ツールへの理解を深め、導入に向けて検討中である。
- ② 会議や話し合いでは、事前に内容の周知を図ったり資料を揃える等、時間管理の意識化を行った。また、当たり前に行っていた行事準備やアルバムの作成等の作業内容を見直し、職員間の話し合いによって作業の効率化をすすめた。さらに、勤務時間内に作業が終了するよう全職員で協力体制をとることができた。

